



9月定例会

～ 一般質問とその答弁 ～

小 椋 利 廣
議 員

☆室戸ジオパーク

について

問一：今後、経済の活性化にどのようにつなげていくか。

答：… 体験型観光のメニューの開発、ジオパーク拠点施設の充実による集客、旅行会社のツアー誘致、ガイド養成など室戸の情報発信、ジオ関連商品の開発、宿泊施設の充実と誘致に取り組み、入り込み客の状況や観光客のニーズの調査研究と分析にも取り組んで持続的な経済発展につなげる。

問二：滞在型観光への取組はどのように考えるか。

答：体験型観光のメニューを充実させ、既存の取組に加えて新しいメニューの開発とともに宿泊施設の充実と誘致、多目的な拠点施設の整備が必要と考えている。

問三：ジオ関連商品の開発は、

答：市民の発案により、飲食、

お菓子類も開発販売されているので、今後もジオ関連商品誕生の動きを支援していく。

問四：子供達への貴重な地質

や地形と生態系の伝承は、

答：室戸の自然・地形・歴史文化・芸能など小学生が地元を理解できるように社会科の副読本や、ジオパークの基本的な知識の養成からガイドができる応用を兼ね備えた「ジオガイドブック」を作成し、活用して人材育成に取り組み。

問五：室戸高校に地質学科を

創設要望して、県内外から生徒を募集してはどうか。

答：総合学科の学校なので新たな学科を作ることには大変困難が予想される。現在の「ジオパーク学」も魅力的な授業だと思つたので、県外にも広くアピールして生徒の確保に向けた支援に取り組む。

問六：市民の理解と協力や支

援要請への取組。

答：教育、防災、産業振興を三本柱にして室戸ジオパークを活かした「まちづくり」

を進めていくなかで、自分達のまちは自分達で良くしていく」という意識を持って、行政と市民が一体となった取組を目指す。

問七：地元ガイドの養成は、

答：ガイドの登録数は二十名だが、常時対応できるガイドは十名未満なので、今後一層ガイドの養成に取り組む。

☆室津避難港について

問：離岸堤整備の影響による

元海岸浸食被害予想の把握は、

答：高知港湾空港整備事務所による調査データの情報を把握するとともに海岸に大きな影響や被災を起こすことのないよう国や県に要請を行う。

☆教育について

問：教育再編について

答：児童数の減少、校区外通学等状況の変化の中、子供に良い教育環境を小中学校統廃合検討委員会の中で地域の方や保護者と議論を進めたい。

☆高齢者対策について

問：交通弱者救済措置は、

答：外出支援は、財政的負担や運営体制等について課題が多く実施できていないが、高齢者福祉計画、介護保険事業の策定に係る基本指針の中で外出支援も新設される見込みがあるので内容把握に努め、活用に努力する。買い物支援は移動販売業者に自動車購入費を補助する制度を実施。

☆NHKの気象映像

について

問：室戸ジオパークをアピー

ルする意味でも、全国放送での台風のNHK気象映像を室戸岬の映像に依頼しては、

答：今後の定点カメラ設置や映像についてNHKに尋ねるとともに、民間放送局のお天気カメラの設置や、室戸のPRにつながる話も聞くので、室戸を知っていただける映像による情報発信をお願いする。